

IFLA（国際図書館連盟）児童ヤングアダルト図書館部会特集号

<目次>

- IFLA児童ヤングアダルト図書館部会の活動ー8年間委員を務めて 護得久えみ子
- IFLA児童ヤングアダルト図書館部会のニュースレター
「Children and Young Adults Section Newsletter」を読んでもみる 鹿野詩乃
- ～過去のニュースレターから～ IFLA関連の記事をご紹介します



IFLA児童ヤングアダルト図書館部会の活動ー8年間委員を務めて

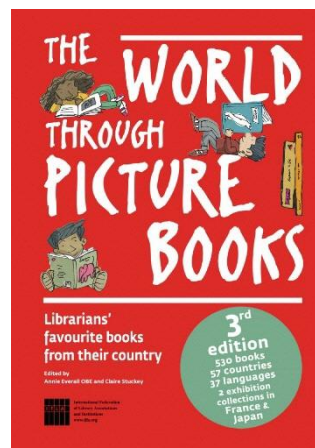
児童青少年委員会委員 護得久えみ子

◆児童ヤングアダルト図書館部会とは

IFLA 児童ヤングアダルト図書館部会(以下、児童 YA 部会)の主な目的は、世界の子どもと若者への図書館サービスの提供と読書推進の支援です。まずは、児童ヤングアダルト図書館部会で現在行っている取組についてご紹介します。

◆絵本で知る世界の国々 The world through picture books

世界各国の図書館員が、手に入る本の中から、ぜひ薦めたい10冊を選んで紹介するものです。取り組みは2011年に始まり、リストの版は2012年、第2版は2015年に刊行されました。また、リストに掲載した本の展示用コレクションが2セットあり、日本の国立国会図書館国際子ども図書館とフランス国立図書館に置かれており、希望があれば国を超えての貸し出しが可能です。



2021年から編纂作業が進んでいた第3版には57カ国が参加(第2版より20カ国以上増加)。2023年夏に完成したリストには、37言語、530冊が収録されており、ウェブ上に公開されています。<https://www.ifla.org/g/libraries-for-children-and-ya/the-world-through-picture-books/> 2023年11月現在、暫定版を公開中)今回のリストでは、書誌からWorld catの情報を検索したり、作家や画家の情報にリンクしたりできるようになりました。

ちなみに、この第3版に収録する日本の作品については、2021年春に児童青少年委員会ホームページなどで呼びかけ、多くの方に候補作を挙げていただきました。その結果を整理し、『ぐりとぐら』(大村百合子え 中川李枝子さく 福音館書店)、『さわるめいろ』(村山純子著 小学館)など10冊を掲載しています。

◆ベスト・プラクティス Best Practice

YouTubeを使って、児童サービスの事例を世界中で共有しよう!という取り組みです。児童YA部会のチャンネルに、各国の図書館から寄せられた動画を集めてあります。現在は、夏の読書キャンペーンや、宿題をボランティアが手伝う取組など14本。いずれも英語で解説がついています。

<https://www.youtube.com/playlist?list=PLNbNYMA4VlILzMTmKLyY736XocBERqsEk>

◆姉妹図書館 Sister Library

異なる国の図書館同士でパートナー関係を結び、交流するプロジェクトです。参加館は公共図書館、学校図書館や図書館に関する機関で、主にメールやインターネットを通じてお互い交流しています。いまはおよそ100館が参加しています。

◆ガイドラインの作成

世界各国での児童・ヤングアダルトへの図書館サービスの向上を目指して、ガイドラインを作成しています。2018年に、既刊の3つのガイドライン(児童、乳幼児、ヤングアダルト)を統合し、0歳から18歳までを対象にした改訂版を発表しました。各国語版がIFLAウェブサイトに公開されています。日本語版は、日本図書館協会・児童青少年委員会が翻訳を行いました。いまは、再改訂に向けて見直しが始まっています。

また、内容を要約し、ビジュアルにつたえるインフォグラフィック版(右図)を2022年に発表。こちらは、IFLAの公式6言語版が公開されています。



◆Safer internet day

2019年に始まった、比較的新しい取り組みです。2月9日のセイファーインターネットデーに合わせて、取り組みをしませんかと声がけをいただき、2020年に11カ国12人の委員がワーキンググループを作成。まずは、図書館員が、子どもやヤングアダルトがインターネットを安全に使えるよう、どのような取組をしているか調査しました。報告書はIFLAウェブサイトに掲載されています。

このほか「リンドグレーン賞」への読書推進に関わる個人や団体の推薦、ニューズレターやフェイスブックでの情報発信などを行っています。このような様々な取り組みを進めるため、委員は定期的に会議を行っています。以前は、顔を合わせられるのは年に2度ほどでしたが、コロナ禍以降は、Zoomを使つての「対面」ミーティングを定期的に行うようになりました。

■第88回世界情報会議での活動

第88回IFLA世界情報会議は、2023年8月21日から25日まで、オランダ・ロッテルダムで開催されました。参加者は150カ国から約3330人。児童YA部会の常任委員会には、今期からの新



委員と、今期で退任する委員もあわせて14カ国19名が出席しました。(ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、ドイツ、クロアチア、イタリア、アメリカ、イギリス、フランス、トルコ、スロベニア、シンガポール、オーストラリア、日本) 8月からの新体制は、19カ国23名となります。

■児童 YA セクションの発表

今回の児童 YA 図書館部会の発表は、『絵本で知る世界の国々』第 3 版の公開にあわせ、絵本に関する取組の事例報告や、ブックリストの紹介がありました。

イタリアからは、ランペドゥーサ島(アフリカとの海峡にあり、移民や難民が多く集まる)にある、文字なし絵本の図書館の取組みについて紹介がありました。IBBY(国際児童図書評議会)のイタリア支部が主催するこの図書館には、世界各国の文字なし絵本が集められています。「文字がないため、誰でも(言葉が違って、教育を受けていなくても)、どのように読むことができる」という言葉が印象に残りました。ほかに、The World through picture books に参加した、アフリカのフランス語圏の絵本についての紹介もありました。



■児童 YA 部会の常任委員会

現在進行中のプロジェクトについては、オンライン会議で相談することにし、会期中の常任委員会では、今後、セクションとして取組みたいことについてのブレインストーミングを行いました。「IBBY や ILA(国際識字協会)、IASL(国際学校図書館協会)など、同じ目標をもつ他団体と連携協力したい。そのためには、窓口担当を設置しては?」「各国の子どもの声を集め、IFLA 全体に届けたい」「IFLA の他セクションとも、積極的に連携を取りたい」「各国の図書館員が気軽にコミュニケーションをとれる仕組みを作りたい」などの意見が出ました。

ちなみに、わたしは昨年のダブリン大会に参加できなかったので、一昨年に委員に就任したメンバー5人とは、実際に会うのは今回が初めてでした。しかし、Zoom で定期的に顔を合わせてきたからか、不思議と、初対面という気がせず、そのうち一人とは、街なかですれちがったときに、お互いに「あ!」と声を掛け合ってしまったほどでした。

■サテライトミーティング

サテライトミーティングは、本大会の前、8月19日に Literacy and reading セクションと共催で行いました。参加者は約50名。会場となった王立図書館は、ハーグ駅の目の前にありました。午前中は、オランダの研究者による基調講演の後、幼い子どもや、その親を対象とした取組みをテーマに、オーストラリアやアメリカ、トルコ、日本(国際子ども図書館)などが事例発表を行いました。

午後は、図書館に併設された子どもの本の博物館の見学からスタート。オランダの絵本や児童文学(マックス・ベルジュイスの「かえるくん」、ディック・ブルーナの絵本、『イップとヤネケ』などの物語を書いたアニー・M・G・シュミット等)の場面やキャラクターなども使って、対象年齢別に様々な部屋が作られています。その後、ブックスタートなど赤ちゃんに向けた読書支援についてのパネルディスカッション、さらに、特別企画として、オランダの絵本作家夫妻が自作の絵本について紹介してくれました。

■ ロッテルダム中央駅での、読み聞かせフラッシュモブ

今回、大会プログラムの1つとして、ロッテルダム中央駅でフラッシュモブが行われました。主催はNPSIG(New Professional Special Interest Group)。大会参加者の有志が5分間、一斉に本を朗読しながら歩き回り、子どもたちに本を読んでやることの大切さを啓発する、というもので、児童 YA セクションからの有志は The World through picture books に取り上げた絵本を持ち寄って集まることに



しました。いろいろな国の人が、いろいろな国のことばで、いろいろな本を読んでいる(スマホで電子書籍を読む人も)という光景は、なかなかおもしろいものでした。わたしは『ぐりとぐら』を持っていきましたが、待ち時間に、「どんな本持ってきた?」と子どもみたいに見せ合いっこするのも、楽しかったです。

○2 期 8 年委員を務めて

こうして、2015年から2期8年の委員としての任期が満了となりました。はじめて委員として世界情報会議に参加したのは、2015年の南アフリカ・ケープタウン大会のとき。会議自体は、2013年に、わたしの前任として委員をなさっていた依田和子さんと参加したことがあり、そのときに引き合わせていただいた委員の方もいらっしゃいましたが、ケープタウンには一人で行くことになり、とても緊張して飛行機(ソウルからヨハネスブルクまで16時間!)に乗ったのを覚えています。

会議でも、話し合われる内容についていくのに必死で、ホテルの部屋で一人、アジェンダを片手に予習・復習をしていました。委員になったからには、なにか、貢献がしたい。でも、何ができるかわからない。そんなわたしを、ほかの委員の方たちは温かく迎えてくれました。「やってみよう!」と手を挙げれば、一緒に話し合おう、意見を聞かせて、とプロジェクトごとのミーティングにも加えてくれました。そんな雰囲気励まされるように、少しずつ自分なりの意見を出していけるようになりました。

2019年3月には、部会のミッドイヤーミーティングを、日本図書館協会を会場に開催させていただきました。あわせて、日図協と部会の共催で、交流会「子どもと図書館 今、世界は—各国の取組から」を開催しました。来日した部会委員と日本からの事例報告を行い、たいへん盛況でした。これは、日本図書館協会国際交流事業委員会、そして児童青少年委員会の方たちの支えとご協力があって、可能になったことでした。この場をお借りして、感謝申し上げます。

児童 YA 部会の委員は、親しみやすい人ばかりで、話し合いでは遠慮なく意見をぶつけあいますが、会議が終われば一緒に食事をし、お互いの仕事や家族の話をし、冗談をいいあったり、しょうもないことで大笑いしたり……。年に1、2回しか会っていないとは思えないくらい、仲がよいチームでした。このようにして、世界のいろいろな国に、いまは「親しい友だち」と呼びたい人ができまし

た。その人たちに、「リアル」で会えなかった長い時期を経て、この夏、3年ぶりに再会できたとき、このチームにいられてよかった、と心の底から思いました。こんな思いをできたのも、委員を務められたからこそ、と感謝しています。

8年は、決して短い時間ではありません。その中で、自分がはたして児童 YA 部会に貢献できたか…と思えば、もっといろいろなことができたよかったです。しかし、わたし自身にとっては、部会の活動も、世界情報会議でさまざまな発表を聞くことも、とても大きな経験になりました。自分の机の上・目の前にある仕事とは違うことにいろいろ触れ、考えたいこと、知りたいことをたくさん持ち帰ることが出来ました。それを自分の中だけにとどめず、いろいろな方たちと共有して、話しあいたいと思っています。

最後になりますが、IFLA への参加にあたって、わたしの参加費や渡航費、宿泊費は、すべて、当館のある理事の方がお支えくださっていました。この場を借りて、深く、お礼を申し上げたいと思います。それから、長期間職場をあけることになるのに、毎年こころよく送り出してくれた、職場の人たちにも、感謝しています。



IFLA 児童ヤングアダルト図書館部会のニュースレター

「Children and Young Adults Section Newsletter」を読んでみる

児童青少年委員 鹿野詩乃

児童ヤングアダルト図書館部会による「Children and Young Adults Section Newsletter」は、不定期刊行です。IFLA のサイトから探し出すのは、ちょっと大変でした。きっとそれだけ IFLA の内容が多彩にわたっているからなのでしょう。そこで、検索サイトから「IFLA Children and Young Adults Section Newsletter」と検索して探し出してみました。刊行のお知らせは、部会のホームページやメーリングリスト、Facebook にあります。

2023年10月号は、

<https://repository.ifla.org/handle/123456789/2865>

上記 URL から、リポジトリや要約、本文 PDF を読むことができます。2023年10月号では、「Banned Books」貸出禁止図書や検閲、そして読書の自由がテーマです。委員同士の夕食時の雑談からこのテーマを取り上げ、Banned Books Week (2023年10月1日～7日)にあわせて、作成された特別版だそうです。タイ、フランス、ノルウェー、イギリス、ケニア、アメリカの各国における貸出

禁止図書への対応、検閲などの記事で構成されています。紹介されている図書のなかには、日本では普通に利用されているものもありました。

2023年春夏号には、「Bibliotecas K-popers (K-POP 図書館)」といった活動がメキシコから報告されています。2022年秋号では、「絵本で知る世界の国々」の活動が紹介され、護得久さんによる『ぐりとぐら』の紹介コメントがあります。

この Newsletter は英語やその他の言語で書かれています。英語のできないわたしが読み進めるためには、Google 翻訳などに助けられました。英語以外の言語では、どの言語で書かれているのかさえも…お手上げです。しかし挿入されている写真だけでも、各国の活動の様子はうかがえます。特に、カラフルな展示風景や各種印刷物は、デザインの参考になりそうです。

普段はあまり意識しない、世界の児童図書館サービスを垣間見ることのできる「Children and Young Adults Section Newsletter」。明日の業務のヒントをさがしに、のぞいてみませんか。



～過去のニューズレターから～ IFLA関連の記事をご紹介します

2022.12 30号

- IFLA(国際図書館連盟) 児童ヤングアダルト図書館分科会ニュース 護得久えみ子

2021.12 28号

- 絵本で知る世界の国々:第3版改訂への取り組み

2020.6 23号

- 世界図書館情報会議・IFLA 第85回アテネ大会 報告 護得久えみ子
- 古代と現代が交錯する都市“アテネ”探訪 依田和子

2019.9 22号

- 第84回 IFLA 年次大会報告 護得久えみ子
- マレーシアの図書館を見学して(クアラルンプール、マラッカ) 浅見佳子
- 絵本で知る世界の国々-IFLA からの贈りもの

2017.11 19号

- IFLA 児童・ヤングアダルト(図書館)分科会報告 護得久えみ子
- 巡回展 The World Through Picture Books「絵本で知る世界の国々～IFLA からのおくりもの」
神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぷらざ)での展示 依田和子

2016.9 18号

- IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会報告 護得久えみ子
- 巡回展 The World Through Picture Books「絵本で知る世界の国々～IFLA からのおくりもの」
西尾初紀・依田和子

2015.3 17号

- 国際図書館連盟(IFLA)第80回リヨン大会 西尾初紀・塚原 博・依田和子

2014.4 16号

- World Library and Information Congress(世界図書館・情報会議) 国際図書館連盟(IFLA)
第79回シンガポール大会 飛田由美
- IFLA 児童・ヤングアダルト図書館分科会サテライトミーティング 護得久えみ子
- 「絵本で知る世界の国々～IFLA からのおくりもの」の開催 The World Through Picture Books
国立国会図書館国際子ども図書館展示会 飛田由美
- IFLAヤングアダルトへの図書館サービスガイドラインを翻訳・刊行

News Letter no.31 ニュース・レター

編集:鹿野詩乃、高橋樹一郎

発行者:島 弘

発行:日本図書館協会児童青少年委員会

日本図書館協会児童青少年委員会事務局

Tel.03-3523-0811/Fax.03-3523-0841

E-mail: jidou@jla.or.jp